

# KA-6130

---

## マザーボード ユーザーマニュアル

DOC No. : 16549

改訂 : A1

日付 : 8, 1998

パート No.: 25-10885-

**第1章 設定の手順**

CMOSの解除: SW1-5.....	2
パスワードの解除: SW1-6.....	2
Flash ROMタイプの選択: EP1, EP2 .....	3
DIMMとシステム周波数の選択: FREQ1, FREQ2 .....	3
CPU内部周波数: SW-1, SW-2, SW-3, SW-4.....	4

**第2章 BIOS設定**

CMOS設定ユーティリティ CMOS Setup Utility .....	5
基本設定 Standard CMOS Setup .....	6
ハードディスク設定 Hard Disk Configurations .....	6
ソフトウェアのターボ速度 Software Turbo Speed.....	7
基本設定 BIOS Features Setup .....	7
機能設定 Chipset Features Setup.....	11
省電力機能設定 Power Management Setup.....	15
プラグ&プレイ・PCI設定 PNP/PCI Configuration .....	19
BIOSの標準設定実行 Load BIOS Defaults.....	22
Setupの標準設定実行 Load Setup Defaults .....	22
デバイスの接続 Integrated Peripherals.....	23
パスワードの設定 Supervisor/User Password.....	27
IDE HDDの自動検出 IDE HDD Auto Detection .....	28
設定の保存終了 Save and Exit Setup .....	29
設定の未保存と終了 Exit without Saving.....	29

## 設定の手順

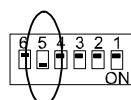
このマザーボードは各ユーザのシステムに適応した設定ができるように、いくつかの変更可能なジャンパー/スイッチがボード上に設置されています。この章ではそれぞれのジャンパーの設定について説明します。以下のステップに従い、コンピュータの組み立て及び設定を進めてください。

- ステップ1  
システムジャンパーの設定
- ステップ2  
メモリモジュールの装着
- ステップ3  
CPUの装着
- ステップ4  
拡張カードの装着
- ステップ5  
各ケーブル類と電源の接続
- ステップ6  
BIOSの設定
- ステップ7  
サポートソフトの設定

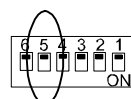
**注意：**このマザーボードをケースに設置する際に、電気ドリルを使用する場合は静電気防止リストを着用してください。チップのピンに損傷を与えないために、推奨するトルクは 5.0 ~ 8.0 kg/cmです。

### CMOSの解除 SW1-5

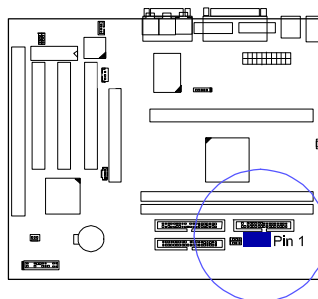
CMOS RAMはボード上に搭載されているセルバッテリーにより電源を供給されています。RTCデータを消去するには次の手順にしたがってください。(1) コンピュータの電源を落とします。(2) SW1-5をOnの位置に設定してこの機能を有効にします。(3) コンピュータの電源を投入します。(4) コンピュータの電源を落とします。(5) CMOS解除機能を無効にします。(6) コンピュータの電源を投入します。(7) ブート時にDeleteキーを押してBIOS Setupに入り、新しい設定を行ってください。



Enable (Clear CMOS)

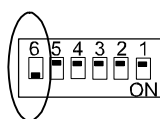


Disabled (Default)

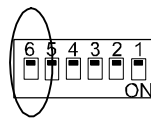


### パスワードの解除 SW1-6

このジャンパーで、パスワードの設定を有効または無効にします。パスワードを忘れた場合は次の手順でパスワードを解除できます。(1) コンピュータの電源を落とします。(2) SW1-6をOnの位置に設定してこの機能を有効にします。(3) コンピュータに電源を投入します。(4) コンピュータの電源を落とします。(5) SW1-6をOffの位置に設定してこの機能を無効にします。(6) 再度コンピュータに電源を投入してください。(7) ブート時にDeleteキーを押してBIOS Setupに入り、新しいパスワードを入力してください。



Enable (Clear Password)



Disable (Default)

### Flash ROMタイプの選択 EP1, EP2

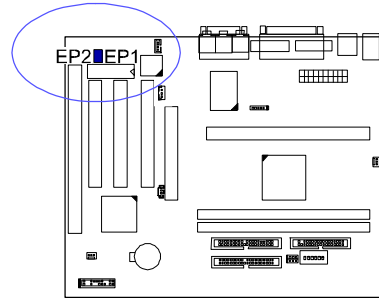
この2つのジャンパーでFlash ROMチップのタイプを選択できます。この設定はこのボードの製造上のデフォルト値に設定されています。マザーボードに装着されているFlash ROMのタイプを確認する場合は、チップのステッカーをはがして確認してください。

**2MB:**

MXIC 28F2000TPC  
INTEL 28F020



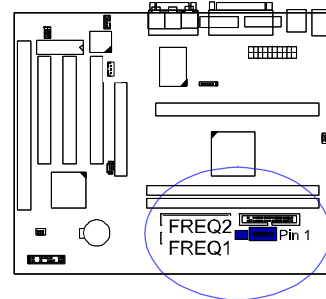
Winbond W29C020  
SST 29EE020  
ATMEL AT29C020  
AMD AM29F002NT



### DIMMとシステム周波数の選択 FREQ1, FREQ2

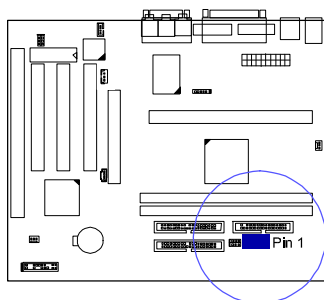
これらのジャンパーはDIMMとシステムの周波数を設定します。

CPU External Freq.	DIMM Freq.	PC-100	Non PC-100
		-7ns, -8ns	-8ns, -10ns, -12ns, above
100MHz			
66MHz		N/A	



**CPU内部周波数 SWI-1, SWI-2, SWI-3, SWI-4**

これら4つのスイッチはCPU内部周波数を設定します。



<i>Ratio</i>	<i>Bus Frequency = 100MHz</i>	<i>Bus Frequency = 66MHz</i>	<i>Switches Settings</i>
3.5 x	350MHz	233MHz	
4 x	400MHz	266MHz	
4.5 x	450MHz	300MHz	
5 x	500MHz	333MHz	

## BIOS 設定

このマザーボードは、システムのROM設定情報を含むAward BIOSチップを使用しています。このBIOSチップは、CPUとその他ボード上の構成部品とのインターフェースの役割を担っています。この章では設定プログラムに含まれる情報と、PCシステムの構成に合わせた設定方法を説明します。

### CMOS設定ユーティリティ CMOS Setup Utility

ROM PC15A BIOS (2A6LFF09) CMOS SETUP UTILITY AWARD SOFTWARE, INC.	
STANDARD CMOS SETUP	INTEGRATED PERIPHERALS
BIOS FEATURES SETUP	SUPERVISOR PASSWORD
CHIPSET FEATURES SETUP	USER PASSWORD
POWER MANAGEMENT SETUP	IDE HDD AUTO DETECTION
PNP/PCI CONFIGURATION	SAVE & EXIT SETUP
LOAD BIOS DEFAULTS	EXIT WITHOUT SAVING
LOAD SETUP DEFAULTS	
Esc : Quit	+ + - - : Select Item
F10 : Save & Exit Setup	(Shift)F2 : Change Color
Time, Date, Hard Disk Type...	

システムBIOSに書き込まれている設定プログラムはCMOSROMに保存されています。この設定プログラムでマザーボードの構成に関する設定を調整できます。このプログラムはユーザがシステム構成やバックアップバッテリーを変更したり、システムが構成上のエラーを検出し、ユーザに設定プログラムを起動することを要求したときに実行されます。矢印キーで選択して、Enterキーでプログラムを実行してください。

## 基本設定 Standard CMOS Setup

ROM BIOS (2A6LFF09)									
STANDARD CMOS SETUP									
AWARD SOFTWARE, INC.									
Date (mm/dd/yy) : Wed, Jul 8 1998									
Time (hh:mm:ss) : 15 : 37 : 55									
HARD DISKS	TYPE	SIZE	CYLS	HEAD	PRECOMP	LANDZ	SECTOR	MODE	
Primary Master	: Auto	0	0	0	0	0	0	0	Auto
Primary Slave	: Auto	0	0	0	0	0	0	0	Auto
Secondary Master	: Auto	0	0	0	0	0	0	0	Auto
Secondary Slave	: Auto	0	0	0	0	0	0	0	Auto
Drive A : 1.44M, 3.5 in.									
Drive B : None									
Video : EGA/VGA					Base Memory: 640K				
Halt On : All Errors					Extended Memory: 31744K				
					Other Memory: 384K				
					Total Memory: 32768K				
Esc : Quit			↑ → ← : Select Item			PUPD/+/− : Modify			
F1 : Help			(Shift)F2 : Change Color						

Standard CMOS設定画面が上図のように表示され、それぞれの項目で1つ以上の設定ができます。システムメモリはBIOSが自動的にサイズを認識するので特に設定する必要はありません。矢印キーで項目をハイライト表示し、PgUpまたはPgDnキーで値を選択してください。

## ハードディスク設定 Hard Disk Configurations

**TYPE:** それぞれの項目について、ディスクドライブの任意の値を「1～45」の中から選択します。マニュアルで値を設定する場合は「User」を選択し、HDD自動認識機能を利用するには、「Auto」を選択します。

**SIZE:** ハードディスクの容量を表示します。単位はメガバイトです。

**CYLS:** ハードディスクのシリンダー数を表示します。

**HEAD:** HDDの読み出し及び書き込みの設定をします。

**PRECOMP:** ハードディスクドライブが書き込むタイミングを変更するときのシリンダー数を設定します。

**LANDZ:** HDDヘッドが待避するシリンダー数の位置を設定します。

**SECTOR:** ハードディスクの各トラックに定義されるセクターの数を設定します。

**MODE:** HDDの転送モードの自動設定には「Auto」を選択してください。使用するハードディスクがLBA modeをサポートしている場合は、「LBA」または「Large」を選択してください。使用するハードディスクのシリンダーが1024以上で、LBA機能をサポートしていない場合は、必ず「Large」を選択してください。ハードディスクが1024以下のシリンダー数しかサポートしていない場合は「Normal」を選択してください。



## ソフトウェアのターボ速度 *Software Turbo Speed*

Software TurboSpeed機能で、DOSゲームのスピードを調整することができます。フロントパネルのTurbo Speed Buttonを押さずにAlt、Ctrl、+の3つのキーを同時に押すと、Turbo Speed機能を有効にし、Alt、Ctrl、-の3つのキーを同時に押すと、この機能は解除されます。

## 基本設定 BIOS Features Setup

ROM PCI/ISA BIOS (2A6LFF09) BIOS FEATURES SETUP AWARD SOFTWARE, INC.			
Anti-Virus Protection	: Enabled	Video BIOS Shadow	: Enabled
CPU Internal Cache	: Enabled	C8000-CBFFF Shadow	: Disabled
External Cache	: Enabled	CC000-CFFFF Shadow	: Disabled
CPU L2 Cache EDC Checking	: Enabled	D0000-D3FFF Shadow	: Disabled
Quick Power On Self Test	: Enabled	D4000-D7FFF Shadow	: Disabled
Boot from LAN first	: Disabled	D8000-DBFFF Shadow	: Disabled
Boot Sequence	: A, C, SCSI	DC000-DFFFF Shadow	: Disabled
Swap Floppy Drive	: Disabled		
Boot Up Floppy Seek	: Enabled		
Boot Up NumLock Status	: On		
Cache A20 Option	: Fast		
Memory Parity/ECC Check	: Disabled		
Type III Rate Setting	: Disabled		
Type III Rate (Chas/Sec)	: Disabled		
Type III Delay (Msec)	: 8		
Security Option	: 259	Esc: Quit	+<-->: Select Item
IDE Second Channel Control	: Setup	F1: Help	PUP/D<+>: Modify
PCI/VGA Palette Snoop	: Enabled	F5: Old Values (Shift/F2)	: Color
OS Select For DRAM > 64MB	: Disabled	F6: Load BIOS Defaults	
Report No HDD For WIN 95	: Non-OS2	F7: Load Setup Defaults	
	: No		

### Anti-Virus Protection

有効設定 (Enabled) で、第1ハードディスクのマスタースタートセクターとDOSブートセクターでウィルスの検索をします。初めてオペレーティングシステムをインストールするときは、「Disabled」のままにしておいてください。設定: Enabled (デフォルト), Disabled

### CPU Internal Cache

有効設定 (Enabled) で、システムのパフォーマンスを向上させます。トラブルシューティングやテストのときには無効 (Disabled) に設定してください。設定: Enabled (デフォルト), Disabled

### External Cache

有効設定 (Enabled) で、オプションのSRAMキャッシュをサポートします。設定: Enabled (デフォルト), Disabled

## KA-6130ユーザーマニュアル

---

### CPU L2 Cache ECC Checking

有効設定 ( Enabled ) で、CPUL2キャッシュのエラーチェック機能と修正機能を有効にします。設定 : Enabled ( デフォルト ) , Disabled

### Quick Power On Self Test

有効設定 ( Enabled ) で、BIOSの詳しいメモリテストを省略します。設定: Enabled ( デフォルト ) , Disabled

### Boot Sequence

選択した順序でディスクドライブのオペレーティングシステムを優先的に起動することができます。設定:A, C, SCSI ( デフォルト ) ; C, A, SCSI; C, CDROM, A; CDROM, C, A; D, A, SCSI; E, A, SCSI; F, A, SCSI; SCSI, A, C; SCSI, C, A; C Only; LS/ZIP, C.

### Swap Floppy Drive

ブート時にOSがFDDにアクセスする順番を入れ替えることができます。設定:Enabled, Disabled ( デフォルト )

### Boot Up Floppy Seek

有効設定 ( Enabled ) で、長めのシークコマンドを利用してBIOSがフロッピーディスクドライブのテストを実行します。設定Enabled ( デフォルト ) , Disabled

### Boot Up Numlock Status

有効設定 ( On ) でシステム起動時にNum Lock機能が実行されません。NumLockを有効にすることにより、ブート直後にキーボードの数値キーパッドを使用することができます。設定On ( デフォルト ) , Off

### Gate A20 Option

GateA20とはシステムが1MB以上のメモリにアドレスする方法のことです。「Fast」に設定すると、システムチップセットがGateA20を制御し、「Normal」に設定すると、キーボードコントローラ内のピンが制御します。「Fast」設定でOS/2やWindowsを使用するとき反応が速くなります。設定:Fast ( デフォルト ) , Normal

#### Memory Parity/ECC Check

ECCまたはパリティDRAMを検出したとき、自動的にメモリチェックを実行させます。設定：Enabled;Disabled (デフォルト)

#### Typematic Rate Setting

タイプマティック (Typematic) とは、キーボードのキーを押し続けたとき、キーを放すまで繰り返し同じ文字が入力される機能のことです。「Enabled」でこのタイプマティックのリピートスピードの設定を変更できます。設定:Disabled (デフォルト),Enabled

#### Typematic Rate (Chars/Sec)

この機能はキーを押し続けたときに入力される文字のリピートスピードを変更します。設定:6 (デフォルト),8,10,12,15,20,24,30

#### Typematic Delay (Msec)

文字がリピート入力されるまでの間隔を設定します。設定: 250 (デフォルト),500,750,1000 (ミリ秒)

#### Security Option

システムのセキュリティーレベルの設定をします。設定: Setup (デフォルト),System

#### IDE Second Channel Control

チップセットには2つのIDEチャンネルに対応したPCIIDEインターフェイスが含まれています。有効設定 (Enabled) で、セカンダリオンチップIDEインターフェイスを有効にします。セカンダリ拡張IDEインターフェイスを搭載している場合は、「Disabled」に設定してこの機能を無効にしてください。設定：Enabled (デフォルト); Disabled.

#### PCI/VGA Palette Snoop

VGA Palette Snoop機能を必要とするISAアダプタカードが装着されている場合は、「Enabled」に設定してください。設定：Disabled (デフォルト);Enabled

#### OS Select For DRAM > 64MB

オペレーティングシステム (OS) がOS/2の場合は、「OS2」を選択してください。それ以外は、デフォルト設定の「Non-OS2」にしてください。設定:Non-OS2 (デフォルト),OS2

#### Report No FDD For WIN 95

「DriveA」または/および「DriveB」が「None」に設定されているとき、「Yes」に設定するとBIOSはWindows 95や Windows 98に報告しません。設定: Yes,No (デフォルト)

#### Video BIOS Shadow

有効設定 (Enabled) で拡張ビデオカードのVideoROMコードをシステムメモリにコピーし、処理速度を向上することができます。設定: Enabled (デフォルト), Disabled

#### C8000-CBFFF to DC000-DFFFF Shadow

有効設定 (Enabled) で拡張カードのBIOS ROMコードをシステムメモリにコピーし、処理速度を向上することができます。同時に、拡張カードのパフォーマンスも向上できることがあります。が、拡張カードのBIOSROMコードがシャドウされている場合は、正常に機能しないこともあります。正しい選択をするためには、各拡張カードの持つBIOSROMのメモリアドレスの範囲を確認する必要があります。設定: Enabled, Disabled (デフォルト)

## 機能設定 Chipset Features Setup

ROM PCVISA BIOS [2MELPF09] CMOS SETUP UTILITY CHIPSET FEATURES SETUP			
Bank 0/1 DRAM Timing	: FP/EDO 70ns	Auto Detect DIMM/PCI Clk	: Enabled
Bank 2/3 DRAM Timing	: FP/EDO 70ns	Spread Spectrum Modulated	: Disabled
SDRAM Cycle Length	: 3	CPU Host Clock	: Default
Memory Hole At 16Mb Addr.	: Disabled	Current System Temp.	: Disabled
Read Around Write	: Disabled	Current CPU Temperature	: ..
Concurrent PCI/Host	: Disabled	Current CPU Ext. Temp.	: ..
Vidia RAM Cacheable	: Disabled	Current CPU FAN Speed	: ..
AGP Aperture Size	: 64M	Current Chassis FAN Speed	: ..
AGP 2X Mode	: Enabled	IN0 (V)	: IN2 (V)
C2D Post-Write Buffer	: 4-Level	+5 V	: +12 V
Read DRAM Prefetch Buf	: 4-Level	-12 V	: -5 V
DRAM Read Request Rate	: 3T	VBAT (V)	: 5VSB (V)
DRAM Ows for B2B Write	: Enabled	Shutdown Temperature	: 60°C(140°F)
DRAM Ows for B2B Read	: Enabled		
OnChip USB	: Disabled		
		Esc: Quit	↑↓←→: Select Item
		F1: Help	PU/PD/F+: Modify
		F5: Old Values	[Shift]F2: Color
		F6: Load BIOS Defaults	
		F7: Load Setup Defaults	

## Bank 0/1 DRAM Timing; Bank 2/3 DRAM Timing

DRAMの読み出し/書き込み ( read/write ) スピードを選択できます。設定: FP/EDO 70ns ( デフォルト ); FP/EDO 60ns; Fast; Normal; Turbo

## SDRAM Cycle Length

SDRAM DIMMを使用しているときのみBIOSの自動検出機能により、この項目が表示されます。使用中のSDRAMDIMMのCASlatencyが2の場合は「2」に設定して、システムパフォーマンスを向上させてください。使用中のSDRAMDIMMのCASlatencyが3の場合は、デフォルト設定の「3」のままにしてください。設定: 2,3 ( デフォルト )

## Memory Hole At 15M Addr.

システムメモリの特定領域を特別なISAカード用に確保することができます。詳細はカードの説明書をお読みください。無効設定 ( Disabled ) で、プロセッサが14 ~ 16MB ( または15 ~ 16MB ) の領域にアクセスするとき、14MB ( または15MB ) の領域はDRAMサイクルとして扱われます。設定: 15M-16M, 14M-16M, Disabled ( デフォルト )

#### Read Around write

この機能は、有効 (Enabled) にしておくことでデータの読み込みに関するパフォーマンスを高速にします。設定: Enabled, Disabled (デフォルト)

#### Concurrent PCI/Host

各バスマスターサイクルが同じバスを使用しない場合は、複数のバスマスターサイクルを同時に有効にします。設定: Disabled (デフォルト); Enabled

#### Video RAM Cacheable

ビデオRAMをキャッシュさせてパフォーマンスを向上させます。設定: Disabled (デフォルト); Enabled

#### AGP Aperture Size (MB)

オンボードAGPカードで使用されるメインメモリのフレームサイズを設定します。設定: 4, 8, 16, 32, 64 (デフォルト), 128, 256

#### AGP-2X Mode Support

AGPアドインカードが装着されているとき、AGPモードを1xか2xに設定できます。ただし、AGPカードが1xモードしかサポートしていないときに「Enabled」に設定すると、システムは自動的に1xモードに設定されます。設定: Enabled (デフォルト), Disabled

#### C2D Post-Write Buffer

CPUがDRAMへ書き込むとき先にチップセットバッファに書き込まれます。「4-Level」に設定すると「1-Level」に設定したときよりもバッファが多くなります。設定: 4-Level (デフォルト), 1-Level

#### Read DRAM Prefetch Buf

チップセットはDRAMブロックに異なる優先順位を与えます。より頻繁にアクセスすると、チップセットは自動的にDRAMデータをプリフェッチします。「4-Level」に設定すると「1-Level」に設定したときよりもバッファが多くなります。設定: 4-Level (デフォルト), 1-Level

**DRAM Read Request Rate**

CPUはチップセットへのサイクルを強制して、チップセットはDRAMへの強制を2Tまたは3T遅らせます。設定：3T（デフォルト）、2T

**DRAM 0ws for B2B Read**

有効設定（Enabled）で、データが同じ列のDRAMから読み込まれるときDRAMコマンドサイクルを保存します。これを「Back-to-Back Read」と呼びます。「Back-to-Back Read」のみのときは、待ち時間なしが発生します。設定：Enabled（デフォルト）、Disabled

**OnChip USB**

有効設定（Enabled）で、オンボードのUSB機能を使用できます。設定：Disabled（デフォルト）;Enabled

**BIOS Support USB Keyboard**

この項目は「OnChipUSB」を「Enabled」に設定してある場合にのみ有効になります。USBデバイスのドライバやシステムBIOSがUSBデバイスを自動的に検出できないときは、「DOS」に設定してドライバをインストールしてください。設定：Setup（デフォルト）;DOS

**Auto Detect DIMM/PCI Clk**

有効設定（Enabled）で、DIMMクロックスピードを自動検出します。設定：Enabled（デフォルト）;Disabled

**Spread Spectrum Modulated**

Spread SpectrumをCenter SpreadタイプかDown Spreadタイプに設定します。設定：Disabled（デフォルト）;Enabled

**CPU Host Clock**

CPUクロックの周波数を設定できます。「Default」に設定してあるとき過周波数で稼動すると、システムはブートできなくなります。この場合は、Insertキーを押しながらシステムを再起動してください。設定：Default（デフォルト）、68 MHz, 112 MHz, 90 MHz, 100 MHz, 83 MHz, 75 MHz, 60 MHz, 66 MHz.

**Current System Temp.**

コンピュータに監視機能がついているとき、この項目に現在のシステムの温度が表示されます。

**Current CPU Ext. Temp.**

CPU内部周波数が333MHz以上のとき、内部サーマルダイオードをサポートします。この機能は検温素子の温度を表示します。

**Current CPU FAN Speed**

コンピュータに監視機能がついているとき、これらの項目に現在のCPUファンの回転速度が表示されます。

**Current Chassis FAN Speed**

コンピュータに監視機能がついているとき、これらの項目に現在のシャーシファンの回転速度が表示されます。

**IN0-IN2(V)**

IN0はVcore (CPU Core Voltage) です。IN2は3.3Vです。  
コンピュータに監視機能がついているとき、これらの項目に7本の電圧入力ラインの現在の電圧が表示されます。

**+5V;;+12V; -12V; -5V; VBAT(V); 5VSB(V);**

この項目には電源の電圧が表示されます。

**Shutdown Temperature**

Windows 98をインストールしている場合、システムの温度が設定した温度を超えると、自動的にシステムをシャットダウンさせます。設定：60°C/140°F (デフォルト), 65°C/149°F, 70°C/158°F, 75°C/167°F



## 省電力機能設定 Power Management Setup

ROM (CMOSA BIOS) (2A61FF09) POWER MANAGEMENT SETUP AWARD SOFTWARE, INC.	
Power Management	: User Define
PM Control by APM	: Yes
Video Off Option	: Suspend->Off
Video Off Method	: WH SYNC+Blank
MODEM Use IRQ	: 3
Soft-Off by PWRBTN	: Delay 4 Sec
HDD Power Down	: Disable
Doze Mode	: Disable
Suspend Mode	: Disable
VGA	: OFF
LPT & COM	: LPT/COM
HDD & FDD	: ON
CMA/Inmaster	: OFF
Modem Ring Resume	: Enable
Wake Up On LAN	: Enable
RTC Alarm Resume	: Disabled
Primary INTR	: ON
IRQ3 (COM2)	: Primary
IRQ4 (COM1)	: Primary
IRQ5 (LPT2)	: Primary
IRQ6 (Floppy Disk)	: Primary
IRQ7 (LPT1)	: Primary
IRQ8 (RTC Alarm)	: Disabled
IRQ9 (IRQ2 Redir)	: Secondary
IRQ10 (Reserved)	: Secondary
IRQ11 (Reserved)	: Secondary
IRQ12 (PS/2 Mouse)	: Primary
IRQ13 (Coprocessor)	: Primary
IRQ14 (Hard Disk)	: Primary
IRQ15 (Reserved)	: Disabled
Esc: Out	F1-- : Select Item
F1 : Help	PUP/DI-- : Modify
F5 : Old Values	(Shift)F2 : Color
F6 : Load BIOS Defaults	
F7 : Load Setup Defaults	

### Power Management

省電力機能の調整ができます。「Disabled」に設定すると、一般的な省電力機能の設定を無効にします。「User Defined」設定で、省電力機能のマニュアル設定ができます。「MIN Saving」は各設定時間を最小値に、「MAX Saving」は最大値に設定します。設定: Disable, User Defined (デフォルト), MIN Saving, MAX Saving

### PM Control by APM

APM (Advanced Power Management) 機能を利用しない場合は、「No」を選択してください。「Yes」の選択で、待機モード (Doze)、スタンバイモード (Standby)、サスペンドモード (Suspend) に移行する前に、APM機能実行まで待機したままの状態になります。APM機能に対応している場合は、すべてのタスクが終了した後にシステムが省電力モードに移行するよう管理します。設定: No, Yes (デフォルト)

#### Video Off Option

ディスプレイの省電力モードを選択します。「Suspend - Off」では、サスペンドモードに移行したとき、ディスプレイ表示がオフになります。「All Modes - Off」では、待機モードまたはサスペンドモードに移行したとき、ディスプレイ表示がオフになります。「Always On」では、システムが待機モードまたはサスペンドモードに移行してもディスプレイ表示をスタンバイモードの状態に維持します。設定: Suspend - Off ( デフォルト ) , All Modes - Off, Always On

#### Video Off Method

ディスプレイの省電力モードへの移行方法を設定します。「V/H SYNC+Blank」では、ビデオカードから発信される水平 ( H-Sync )、垂直 ( V-Sync ) 同期信号を落として、ディスプレイ表示をブランクにします。「DPMS Support」では、DPMS ( Display Power Management Signaling function ) 規格のビデオカード自身が制御してディスプレイ表示をブランクにします。「BlankScreen」では、表示信号を落としてディスプレイ表示をブランクにします。設定: V/H SYNC+Blank ( デフォルト ) , DPMS, BlankScreen

#### MODEM Use IRQ

モデムの指定するIRQ番号に合わせて、利用できるIRQを変更できます。設定: NA,3 ( デフォルト ) , 4,5,7,9,10,11

#### Soft-Off by PWR-BTTN

「Delay 4 Sec.」設定では電源ボタンを押して4秒後にシステムをシャットダウンします。「Instant-Off」の設定では、電源ボタンを押したら直ちにシステムをシャットダウンします。設定: Delay 4 Sec. ( デフォルト ) ; Instant Off

#### HDD Power Down

システムがサスペンドモードに移行したときハードディスクドライブ ( HDD ) のモーターをオフにします。「1Min..15Min」の設定は、HDDが省電力モードに移行する前のHDDアイドルタイムを定義します。「1Min..15Min」設定は同時に実行されません。省電力モード中のHDDへアクセスするとHDDは通常モードに回復します。設定: Disable ( デフォルト ) , 1Min..15Min

**Doze Mode**

無効設定 (Disabled) で、待機モードに移行しなくなります。待機モードに移行するまでのアイドルタイムの設定が可能です。設定: Disabled ( デフォルト ) , 1, 2, 4, 8, 12, 20, 30, 40 Min, 1 Hr

**Suspend Mode**

無効設定 (Disabled) で、サスペンドモードに移行しなくなります。サスペンドモードに移行するまでのアイドルタイムの設定が可能です。設定: Disable ( デフォルト ) , 1, 2, 4, 8, 12, 20, 30, 40 Min, 1 Hr.

**VGA**

有効設定 (ON) で、VGA機能を利用していないと判断したとき省電力タイマーが稼働します。「OFF」選択ではVGAが稼働してない時でもこの機能は無効になります。設定OFF( デフォルト ) , ON

**LPT & COM**

「LPT/COM」で、LPTとCOMポートが利用されていないと判断されたとき省電力タイマーが稼働します。「LPT(COM)」で、LPT (COM) ポートが利用されていないと判断されたとき、省電力タイマーが稼働します。「NONE」でこの機能は無効になります。設定:LPT/COM ( デフォルト ) , LPT, COM, NONE

**HDD & FDD**

有効設定 (ON) で、HDDとFDDが作動していないとき、省電力タイマーが稼働します。「OFF」でこの機能は無効になります。設定: OFF, ON ( デフォルト )

**DMA/master**

「ON」設定で、LANカードかSCSIカードのバスマスターまたはDMAの省電力からの回復イベント機能を有効にします。設定: OFF ( デフォルト ) ; ON

**Modem Ring Resume**

モデムを利用した電話によるリモートコントロールで、システムは電源オフの状態からオンになります。設定: Enabled, Disabled ( デフォルト )

#### RTC Alarm Resume

有効設定 (Enabled) で、タイマー設定により電源オフ状態からオンになります。設定: Enabled, Disabled (デフォルト)

#### Primary INTR

「ON」設定で省電力機能のウェイクアップイベントをオンにします。「OFF」設定では第一割り込みが発生してもシステムを省電力モードから回復させません。設定: ON(デフォルト);OFF

#### IRQ# Activity

「Suspend Mode」機能で定義した時間が経過すると、システムは待機モードからサスペンドモードに移行し、CPUクロックを停止させてディスプレイをオフにします。この時、プライマリーとして設定されているIRQが作動すると、システムは直接通常(Full-On)モードに復帰します。IRQがセカンダリーとして定義されている場合は、システムはドリーム(Dream)モードという省電力状態に移行します。ディスプレイ表示がオフである以外は通常モードで稼働し、対応するIRQが割り込み処理を終えると、サスペンドモードに復帰します。

IRQ 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 14, 15の設定: Primary, Secondary, Disabled

IRQ 12の設定: Primary, Secondary

IRQ 8, 9, 10, 11, 15のデフォルト: Disabled

IRQ 3, 4, 5, 7, 12, 14のデフォルト: Primary

## プラグ & プレイ・PCI設定 PNP/PCI Configuration

ROM PCI/ISA BIOS (2A6LFF09) PNP/PCI CONFIGURATION AWARD SOFTWARE, INC.			
PNP OS Installed	: No	CPU to PCI Write Buffer	: Enabled
Resources Controlled By	: Auto	PCI Dynamic Bursting	: Enabled
Reset Configuration Data	: Disabled	PCI Master 0 WS Write	: Enabled
		PCI Delay Transaction	: Enabled
		PCI#2 Access #1 Retry	: Disabled
		AGP Master 1 WS Write	: Enabled
		AGP Master 1 WS Read	: Disabled
		PCI IRQ Activated By	: Level
		Assign IRQ For USB	: Disabled
		Assign IRQ For VGA	: Enabled
		Assign IRQ For ACPI	: IRQ10
		Esc: Quit	+ + + + : Select Item
		F1 : Help	PU/PD/+/- : Modify
		F5 : Old Values	(Shift)F2 : Color
		F6 : Load BIOS Defaults	
		F7 : Load Setup Defaults	

### PNP OS Installed

Windows95のようにOSがプラグ & プレイ機能に対応している場合は「Yes」に設定します。設定:No (デフォルト), Yes

### Resources Controlled By

BIOSで全てのシステムリソースを自動設定させるには「Auto」に設定します。競合するリソースが見つかった場合は「Manual」に設定してください。設定: Auto (デフォルト), Manual (IRQ-/DMA-に割り当てられるマニュアル設定: Legacy ISA, PCI/ISA PnP)

### Reset Configuration Data

有効設定 (Enabled) で、現在のBIOS設定をクリアしデフォルト設定に戻します。設定: Enabled, Disabled (デフォルト)

### CPU to PCI Write Buffer

有効設定 (Enabled) で、システムコントローラの内部バッファへのデータとアドレスのアクセスが可能になり、CPUが待機状態から開放されます。設定: Enabled (デフォルト), Disabled

#### PCI Dynamic Bursting

有効設定 (Enabled) で、継続するPCIサイクルが同じ1KB空間のアドレスであれば、PCIコントローラーはPCI転送をバーストモードで実行し、PCIバスの処理能力を向上させます。設定: Enabled (デフォルト), Disabled

#### PCI Master 0 WS Write

有効設定 (Enabled) で、PCIマスタードライブがDRAMにデータを書き込むとき、待機状態無しのサイクル (zero-wait state-cycle) を実行します。設定: Enabled (デフォルト), Disabled

#### PCI Delay Transaction

この機能を有効 (Enable) にすると、新しいPCIマスタの要求があると現在のPCIマスタサイクルを中止して受理し、その後で再受諾された先のPCIマスタにデータ転送します。設定: Disabled, Enabled (デフォルト)

#### PCI#2 Access #1 Retry

有効設定 (Enabled) で、AGP (PCI#2) が設定した回数だけPCI (PCI#1) にアクセスします。設定: Disabled (デフォルト); Enabled

#### AGP Master 1 WS Write

有効設定 (Enabled) で、AGPバスマスターがDRAMへデータを書き込むと待ち状態サイクルを1つ追加します。設定: Enabled (デフォルト); Disabled

#### AGP Mater 1 WS Read

有効設定 (Enabled) で、AGPバスマスターがDRAMへデータを読み込むと待ち状態サイクルを1つ追加します。設定: Disabled (デフォルト); Enabled

#### PCI IRQ Activated By

指定された技術者以外はこの設定をデフォルトにしておくことを推奨します。設定: Level (デフォルト), Edge

#### Assign IRQ For USB

USBデバイスが接続されていて、OSがUSB機能に対応しているときは ( Windows 95およびWindows 98 )、 「 Enabled 」 に設定してください。 設定 : Disabled ( デフォルト ) ; Enabled

#### Assign IRQ For VGA

使用しているPCIのVGAカードがIRQを必要としない場合は 「 Disabled 」 を選択します。 IRQが1つ開放され、他のリソースに割り当てられます。 設定: Enabled, Disabled ( デフォルト )

#### Assign IRQ For ACPI

OSがACPI機能に対応しているとき ( Windows 98など ) , IRQ0を選択することができます。 設定 : IRQ10 ( デフォルト ) , IRQ9, IRQ11





## デバイスの接続 Integrated Peripherals

ROM PC/MISA BIOS (2A6LFF(19)) INTEGRATED PERIPHERALS AWARD SOFTWARE, INC.			
OnChip IDE First Channel	: Enabled	Onboard Parallel Port	: 378/IRQ7
OnChip IDE Second Channel	: Enabled	Onboard Paralle Mode	: SPP
IDE Prefetch Mode	: Enabled	ECP Mode Use DMA	: 3
IDE HDD Block Mode	: Enabled	Parallel Port EPP Type	: EPP1.9
IDE Primary Master PIO	: Auto		
IDE Primary Slave PIO	: Auto		
IDE Secondary Master PIO	: Auto		
IDE Secondary Slave PIO	: Auto		
IDE Primary Master UDMA	: Auto		
IDE Primary Slave UDMA	: Auto		
IDE Secondary Master UDMA	: Auto		
IDE Secondary Slave UDMA	: Auto		
Init Display First	: PCI Slot		
Onboard FDD Controller	: Enabled	Esc: Quit	+/- : Select Item
Onboard Serial Port 1	: 3F8/IRQ4	F1 : Help	PU/PD/+/- : Modify
Onboard Serial Port 2	: 2F8/IRQ3	F5 : Cld Values (Shift)F2	: Color
UART 2 Mode	: Standard	F6 : Load BIOS Defaults	
IR Function Duplex	: Half	F7 : Load Setup Defaults	
RxD , Tx/D Active	: HI, HI		

### OnChip IDE First/Second Channel

チップセットには2つのIDEチャンネルに対応したPCIIDEインターフェイスが含まれています。有効設定 (Enabled) で、ファースト/セカンドIDEインターフェイスを有効にします。プライマリ/セカンダリ拡張IDEインターフェイスを搭載している場合は、「Disabled」に設定してこの機能を無効にしてください。設定: Enabled (デフォルト); Disabled

### IDE Prefetch Mode

データをプライマリIDEデータポートにポストさせ、ここからプリフェッチさせます。プライマリ/セカンダリ拡張IDEインターフェイスを搭載しているときは、そのインターフェイスがプリフェッチ機能に対応していない場合は「Disabled」を選択してください。設定: Enabled (デフォルト); Disabled

### IDE HDD Block Mode

ブロックモードはクロック送信、マルチコマンド、マルチセクタ書き込み/読み込みともいいます。有効設定 (Enabled) で、システムがブロックモードのハードディスクに読み出し及び書き込み要求を実行します。設定: Enabled (デフォルト); Disabled

#### IDE Primary Master PIO

PCIのプライマリIDEハードディスク（マスター）モードの自動またはマニュアル設定を選択します。設定:Auto（デフォルト）, Mode 0, Mode 1, Mode 2, Mode 3, Mode 4

#### IDE Primary Slave PIO

PCIのプライマリIDEハードディスク（スレーブ）モードの自動またはマニュアル設定を選択します。設定:Auto（デフォルト）, Mode 0, Mode 1, Mode 2, Mode 3, Mode 4

#### IDE Secondary Master PIO

PCIのセカンダリIDEハードディスク（マスター）モードの自動またはマニュアル設定を選択します。設定:Auto（デフォルト）, Mode 0, Mode 1, Mode 2, Mode 3, Mode 4

#### IDE Secondary Slave PIO

PCIのセカンダリIDEハードディスク（スレーブ）モードの自動またはマニュアル設定を選択します。設定:Auto（デフォルト）, Mode 0, Mode 1, Mode 2, Mode 3, Mode 4

#### IDE Primary Master UDMA

プライマリマスターハードディスクモードの第1 PCIIDEチャンネルの選択、またはハードディスクがUDMA（DMAより高速のUltra DMA）に対応している場合は、自動認識ができます。設定: Auto（デフォルト）, Disabled

#### IDE Primary Slave UDMA

プライマリースレーブハードディスクモードの第1 PCIIDEチャンネルの選択、またはハードディスクがUDMA（DMAより高速のUltra DMA）に対応している場合は、自動認識ができます。設定: Auto（デフォルト）, Disabled

#### IDE Secondary Master UDMA

セカンダリマスターハードディスクモードの第2 PCIIDEチャンネルの選択、またはハードディスクがUDMA（DMAより高速のUltra DMA）に対応している場合は、自動認識ができます。設定: Auto（デフォルト）, Disabled

#### IDE Secondary Slave UDMA

セカンダリースレーブハードディスクモードの第2 PCIIDEチャネルの選択、またはハードディスクがUDMA (DMAより高速のUltra DMA) に対応している場合は☑自動認識ができます。設定: Auto (デフォルト), Disabled

#### Init Primary Display

AGP VGAカード / PCI VGAカードを搭載しているとき、どちらのカードからモニタディスプレイを起動するかを選択できます。設定: PCISlot (デフォルト), AGP

#### Onboard FDD Controller

有効設定 (Enabled) で、FDDコントローラがアクティブになります。設定: Enabled (デフォルト), Disabled

#### Onboard Serial Port 1

シリアルポート1がオンボードIOコントローラを使用していれば☑シリアルポートのパラメータを調整できます。I/Oカードを装着する必要がある場合は、COM3とCOM4が必要になる場合があります。設定: 3F8/IRQ4 (デフォルト), 3E8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 2E8/IRQ3, Disabled

#### Onboard Serial Port 2

シリアルポート2がオンボードI/Oコントローラを使用していれば☑シリアルポートのパラメータを調整できます。I/Oカードを装着する必要がある場合は、COM3とCOM4が必要になる場合があります。設定: 2F8/IRQ3 (デフォルト), 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3, 3F8/IRQ4, Disabled

#### UART 2 Mode

シリアルポート2がIRポートとして使用されている場合☑IRモードの設定が可能です。COM2をIRとしてでなくシリアルポートとして利用する場合は、「Standard」に設定します。設定: HPSIR, ASKIR, Standard (デフォルト)

#### IR Function Duplex

この機能は「UART2Mode」が「ASKIR」または「HPSIR」に設定されている場合にのみ有効です。赤外線機能のデータ転送方法を選択します。設定:Half (デフォルト),Full

#### RxD, TxD Active

この機能は「UART2Mode」が「ASKIR」か「HPSIR」に設定されている場合にのみ有効です。アクティブ信号の受信と送信の設定が可能です。但しこの分野に詳しい技術者以外は変更しないことを推奨します。設定:Hi,Hi (デフォルト);Hi,Lo;Lo,Hi;Lo,Lo

#### Onboard Parallel Port

パラレルポートがオンボードのIOコントローラーを利用している場合、既定値からのパラメーター値の選択が可能です。設定:3B IRQ7 (デフォルト),278/IRQ5,3BC/IRQ7,Disabled

#### Onboard Parallel Mode

最新規格の各プリンターに接続できます。IBMPC/XT、PC/AT、またはPS/2システムで使われている双方向性のパラレルポートなど標準パラレルポート(SPP)には「SPP」を選択し、拡張パラレルポート(Extendedparallelport)と標準のパラレルポートの両方には「EPP/SPP」を選択します。MicrosoftとHPの拡張パラレルポート(Extended Capabilities Parallel Port)には「ECP」を選択し、ECPとEPPの両ポートには「ECP/EPP」を選択します。設定:SPP (デフォルト),EPP/SPP,ECP,ECP/EPP

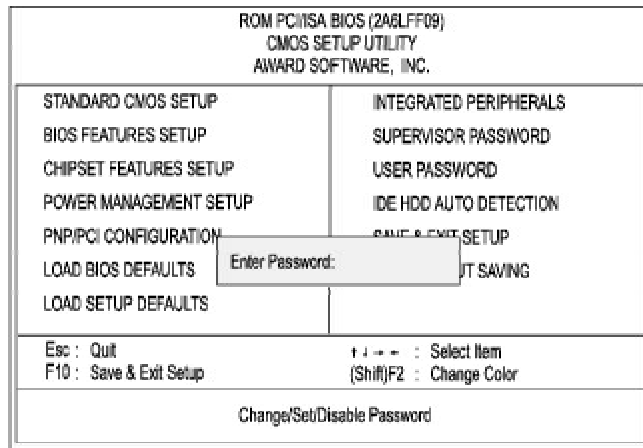
#### ECP Mode Use DMA

「OnboardParallelMode」の設定で「ECP」、または「ECP/EPP」を選択した場合、DMA (Direct Memory Access) チャンネルの設定が可能です。設定:3 (デフォルト),1

#### Parallel Port EPP Type

「Onboard Parallel Mode」の設定で「EPP/SPP」、または「ECP/EPP」を選択した場合、EPPタイプのバージョン設定ができます。設定:EPP1.9 (デフォルト),EPP1.7

## パスワードの設定 Supervisor/User Password



パスワードの設定は、Standard CMOS Setupユーティリティで行います。パスワードの入力を要求されるので、8文字以内のパスワードを入力し「Enter」キーを押してください。確認要求が表示されたらもう一度同じパスワードを入力し「Enter」キーで確定してください。パスワードを無効にするには、パスワードの入力を要求されたとき「Enter」キーを2回押してください。メッセージが表示され、パスワードは入力されません。

機能設定（BIOS Feature Setup）のSecurity Optionの項目で「System」を選択し、Supervisor Passwordを設定した場合、CMOS Setup Utility画面に入るたびにSupervisor Passwordの入力が必要です。「System」を選択し、User Passwordを設定した場合、システムを起動するたびにUser Passwordの入力が必要です。Security Optionの項目で「Setup」を選択し、User Passwordを設定した場合は、システムを再起動したときのみパスワードの入力が必要となります。

### Clear Password

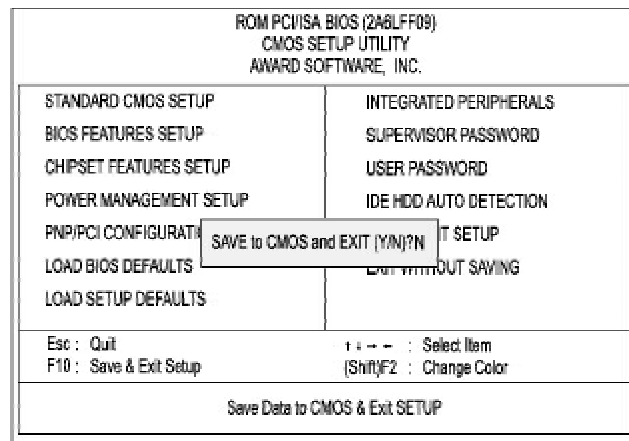
パスワードを忘れてしまった場合はCPWジャンパーを利用してパスワードを解除することができます。方法は第1章の「パスワードの解除」をお読みください。この手順によって、パスワードは解除され、入力は不要になります。

## IDE HDDの自動検出 IDE HDD Auto Detection

ROM PCI/ISA BIOS (2A6LFF09)							
STANDARD CMOS SETUP							
AWARD SOFTWARE, INC.							
HARD DISKS	TYPE	SIZE	CYLS	HEAD	PRECOMP	LANDZ	SECTOR MODE
Primary Master :							
Select Primary Master Option (N=Skip) : N							
OPTIONS	SIZE	CYLS	HEAD	PRECOMP	LANDZ	SECTOR	MODE
2 (Y)	851	825	32	0	1650	63	LBA
1	852	1651	16	65535	1650	63	NORMAL
3	851	825	32	65535	1650	63	LARGE
Note : Some OSes (like SCO-UNIX) must use "NORMAL" for installation							
ESC : Skip							

新しいハードディスクを設置すると、IDEハードディスクの自動検出機能によって自動的に認識されます。これは新しいハードディスクの自動設定に便利です。この機能によるIDEハードディスクのパラメーター設定は4つまで可能です。BIOSによって推奨された設定を利用する場合は「Y」を選択します。また、マニュアルによる各パラメーターの設定もできます。設定終了後は、「E s c」キーでメインメニューに戻ってください。正しく認識されているかはStandard CMOS Setup画面で確認できます。

## 設定の保存終了 Save and Exit Setup



各設定の変更後、「Esc」キーでメインメニューに戻ります。カーソルを「Save and Exit Setup」に合わせるか、「F10」キーを押して、Yを入力すると、CMOS Setupの変更を保存します。何も変更しなかった場合はもう一度「Esc」キーで、または「Exit Without Saving」にカーソルを合わせ、「Y」を入力すると設定は変更されません。画面の中央に下記のようなメッセージが表示されたら、CMOSにデータの変更を保存しSetupユーティリティを終了します。

**SAVE to CMOS and EXIT (Y/N)?**

## 設定の未保存と終了 Exit without Saving

この項目を選択し、下記のようなメッセージが画面の中央に表示されたら、CMOSの設定を変更しないでSetupユーティリティを終了します。

**Quit Without Saving (Y/N)?**

---

注意：この章に記載されているデフォルト設定は、あなたのコンピュータで設定されているデフォルトとは異なる場合があります。

---

余白